報告事項ク

平成３１年度全国学力・学習状況調査の実施について

平成３１年度全国学力・学習状況調査の実施について、別紙のとおり報告します。

平成３１年3月１５日

鳥取県教育委員会教育長　　山　本　仁　志

平成３１年度全国学力・学習状況調査の実施について

平成３１年3月１５日
小　中　学　校　課
県教育センター
高　等　学　校　課

１　調査の目的

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査について

（１）本体調査

◇調査実施日：平成３１年４月１８日（木）

◇調査対象　：小学校６年生、中学校３年生（原則として全児童生徒）

◇調査内容　：①教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）
・調査問題は知識・活用を一体的に問うこととする。（資料３参照）
②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
・児童生徒に対する調査（児童生徒質問紙調査）
・学校に対する調査（学校質問紙調査）

◇調査方式　：全数（悉皆）調査方式で実施（資料１参照）
→実施学校数等は資料２のとおり

（２）英語調査について

平成３１年度は、初めて英語調査（４技能「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」）が行われる。そのうち、「話すこと」調査については、各学校のＰＣ室等のＰＣを活用した音声録音方式で実施される。

（３）その他(参考)

＜平成３２年度（２０２０年度）予定＞

・調査日：平成３２年（２０２０年）４月１６日（木）

・全数（悉皆）調査方式で実施予定（国語、算数・数学）

文部科学省

資料１

平成 31 年度

全国学力・学習状況調査

本調査は，文部科学省が，学校の設置管理者等（教育委員会，学校法人等）の協力を得て実施するものです。

調査実施日：**4月18日（木）**

調査の目的

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図る

◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる

◇そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

調 査 対 象

国・公・私立学校の小学校第６学年，中学校第３学年　原則として全児童生徒

調 査 内 容

❶ 教科に関する調査（国語，算数・数学，英語）

出題範囲は，調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし，出題内容は，それぞれの学年・教科に関し，以下のとおりとする。

① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

調査問題では，上記①と②を一体的に問うこととする。

❷ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査 （例）国語・英語への興味・関心，授業内容の理解度，読書時間，勉強時間の状況　など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 （例）授業の改善に関する取組，指導方法の工夫，学校運営に関する取組，家庭・地域との連携の状況　など

時　間　割　※　国語，算数・数学の調査時間の変更：小学校 40 分→ 45 分，中学校 45 分→ 50 分に変更

◎小学校　（児童質問紙は，２時限目終了後以降に，各学校の状況に応じて実施。）

１時限目	２時限目	
国語（45 分）	算数（45 分）	児童質問紙（20～40 分程度）

◎中学校（例：６学級の場合）　（生徒質問紙は，３時限目終了後以降に，各学校の状況に応じて実施。）

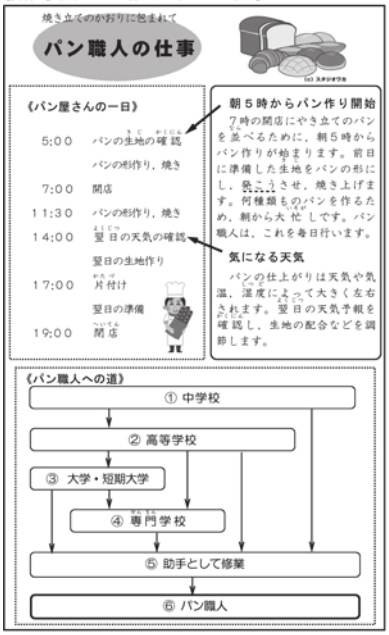
１時限目	２時限目	３時限目	４時限目	５時限目	６時限目
国語（50 分）	数学（50 分）	英語 「聞くこと」 「読むこと」 「書くこと」 （45 分）	生徒質問紙 （20～45 分程度） 等	英語 「話すこと」 （１組、２組、３組）	英語 「話すこと」 （４組、５組、６組）

※　国語，数学，英語の順で実施。
※　「話すこと」調査の所要時間は，生徒１人当たり 10～15 分程度（準備５～10 分程度を含む）。
※　学校規模等により「話すこと」調査の所要時間が５，６時限目で収まらない場合は，４時限目も「話すこと」調査の実施に充てることができる。

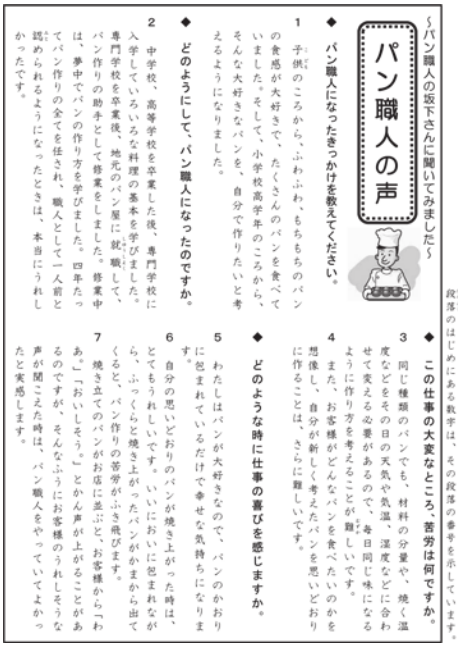
語句の理解，必要な情報を文中から見つけて読み，スピーチに相応しい表現で書く

1 谷口さんたちは、将来なりたい職業について調べ、クラスの中で紹介し合うことにしました。谷口さんは、パン職人を選び、【資料1】を読みましたが、もっとくわしく知りたいと思ったので、【資料2】も読みました。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【資料1】職業について書かれた本の「パン職人」のページ

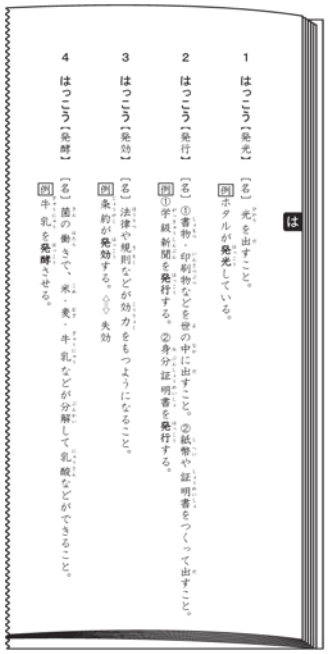


【資料2】パン職人について書かれた本のインタビューのページ



一 谷口さんは、資料を読んでいて意味が分からない言葉があったので、国語辞典を使って調べています。【資料1】の ……部の「発こう」の意味は、あとの【国語辞典の一部】の1から4までの中のどれに当たりますか。一つ選んで、その番号を書きましょう。

【国語辞典の一部】



二 谷口さんは、【資料1】を読んだあと、もっとくわしく知りたいことがあったので別の本を探し、【資料2】を選びました。谷口さんは、どのようなことを知りたいと考えて【資料2】を選びましたか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 パンがどのようにできあがっていくのかを知りたい。
2 パン職人の仕事に対する考え方などを知りたい。
3 パン職人の生活は日によって変わるのかを知りたい。
4 パンには、どのような種類があるのかを知りたい。

三 谷口さんは、【資料2】を読んでいます。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(1) 谷口さんは、坂下さんがなぜパン職人になったのかを調べています。谷口さんは、【資料2】のどの段落を中心に読めばよいですか。最も適切な段落を、【資料2】の中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

(2) 谷口さんは、坂下さんがどのようにしてパン職人になったのかを【資料1】の《パン職人への道》に当てはめて確かめることにしました。【資料1】に付けられた①から⑥までの番号を使うと、どの順番でパン職人になったといえますか。その順番として最も適切なものを、次の1から5までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 ①→⑤→⑥
2 ①→②→⑤→⑥
3 ①→②→④→⑤→⑥
4 ①→②→③→④→⑤→⑥
5 ①→②→③→⑤→⑥

四 谷口さんは、パン職人の仕事についてスピーチで紹介したいと考え、【スピーチメモ】にまとめています。あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【スピーチメモ】

1 将来なりたい職業（パン職人）
2 パン職人を選んだ理由
3 パン職人への道（パン職人になるための方法）
4 パン職人の仕事について
・パン職人の一日
・パン作りと天気との関係
5 パン職人の仕事で、特に心に残ったこと
・パン職人の仕事の苦労
・パン職人の仕事の喜び
6 パン職人になるために自分が考えていること

(1) 谷口さんは、【スピーチメモ】をもとに、友達とスピーチの練習をしています。次は谷口さんの【スピーチの練習の様子】です。□に当てはまる内容を、あとの条件に合わせて書きましょう。

谷口さん

【スピーチの練習の様子】

これから、私が将来なりたいと思っているパン職人の仕事について紹介します。
私がパン職人を選んだ理由は、パンが好きで、将来は自分のお店を持ちたいからです。
パン職人になるためには、いくつかの方法があることが分かりました。例えば、高等学校卒業後に～（中略）～
次に、パン職人の仕事についてです。パン職人の一日は、朝五時にパンの生地の確認をすることから始まります。～（中略）～ このように、おいしいパンを作るために、パン職人は天気など、さまざまなことに気を配っていることが分かりました。
パン職人の仕事について調べてみて、私が特に心に残ったことは「パン職人の仕事の苦労」と「パン職人の仕事の喜び」です。
□
私は将来パン職人になるために、パン作りの工程や、おいしいパン作りのこつなどを学んでいきたいです。そのために、今からできることがないか、探してみたいと思います。
これで、パン職人の仕事についての紹介を終わります。

〈条件〉
○ 【スピーチメモ】の中の「パン職人の仕事の苦労」と「パン職人の仕事の喜び」が伝わるように書くこと。
○ 【資料2】の中の言葉や文を取り上げて書くこと。
○ スピーチにふさわしい表現で、八十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

◆

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

100字　80字

(2) 谷口さんは友達から【助言】をもらい、【スピーチの練習の様子】の――部を別の言葉に直すことにしました。谷口さんは、どのような言葉に直すとよいですか。□に当てはまる言葉を書きましょう。

【助言】

友達

谷口さんは、スピーチの中で、「私は将来パン職人になるために、パン作りのこつなどを学んでいきたいと思います」と話していたけれど、「工程」という言葉は、聞いているだけでは意味がすぐに分からなかったから、別の言葉に直した方がいいと思うよ。

私は将来パン職人になるために、パン作りの□や、おいしいこつなどを学んでいきたいと思います。

6

●正答

一	4
二	2

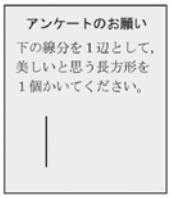
三 (1)	1
三 (2)	3

●正答例

四 (1)	お客様の食べたいパンを考え、新しいパンを思いどおりに作るのはとても大変ですが、焼き立てのパンをお店に並べたときに、お客様からかん声が上がると、パン職人としての喜びが感じられるということです。(95 字)
四 (2)	手順

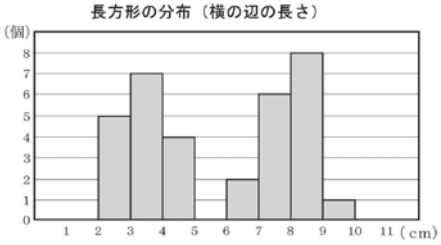
グラフから読み取れる事柄や正しい比較の方法を数学的に説明する

1 拓真さんと里奈さんは，学級の生徒がどのような長方形を美しいと思うかを調べることにしました。そこで，右のような，長さ5 cmの線分がかかれたアンケート用紙を学級の生徒33人に配り，それを1辺とする長方形をかいてもらいました。



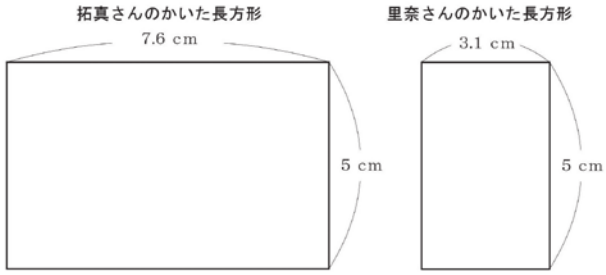
二人は，集計した結果を下のようにまとめました。

調べたこと



平均値	5.5 cm
中央値	6.0 cm
最頻値	8.0 cm
最大値	9.0 cm
最小値	2.4 cm

このヒストグラムから，例えば，横の辺の長さが2 cm以上3 cm未満である長方形が5個かかれていたことがわかります。次の拓真さんのかいた長方形は，7 cm以上8 cm未満の階級に含まれており，里奈さんのかいた長方形は3 cm以上4 cm未満の階級に含まれています。



次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) **拓真さんのかいた長方形**の横の辺の長さは7.6 cmでした。学級の中で，拓真さんのかいた長方形より横の辺の長さが長いものをかいた人が多いのか，横の辺の長さが短いものをかいた人が多いのかは，7.6 cmをある値と比べることでわかります。その値が，下の**ア**から**オ**までの中にあります。それを1つ選びなさい。

ア 平均値

イ 中央値

ウ 最頻値

エ 最大値

オ 最小値

(2) 里奈さんは，拓真さんの長方形を横にしてみると，自分の長方形と同じ形に見えると思いました。

そこで，集計したすべての長方形について，長い辺の長さが短い辺の長さの何倍かを求めて，**図1**のヒストグラムにまとめ直しました。

図1　長方形の分布（割合）

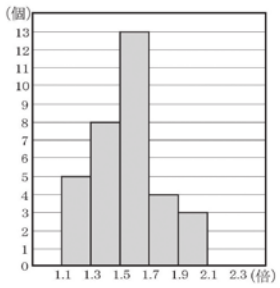


図1のようにまとめ直すと，学級の生徒が美しいと思う長方形について，新たにどのようなことがわかりますか。わかることを，**図1**のヒストグラムの特徴をもとに説明しなさい。

(3) 二人は，生徒と先生では美しいと思う長方形の形の傾向は異なるのではないかと思いました。そこで，先生21人に対して同じアンケートをかいてもらい，先生がどのような長方形を美しいと思うのかについて，**図1**を参考に**図2**を作成しました。

図2　先生たちの長方形の分布（割合）

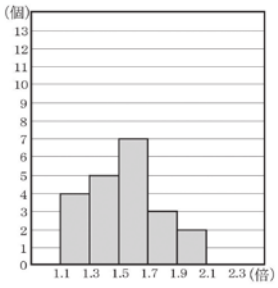


図1と**図2**をもとに，二人は話し合っています。

里奈さん「**図1**と**図2**を比べると，1.5倍以上1.7倍未満の階級では，生徒の方が度数が大きいね。」
拓真さん「ということは，生徒の方がこの階級にたくさん集まっているといえそうだよ。他の階級でも度数を比べれば，その階級に生徒と先生ではどちらが多く集まっているかがわかるね。」
里奈さん「でも，私たちの学級は33人で先生たちは21人で人数の合計に違いがあるから，階級の度数では比べられないのではないかな。」

同じ階級にたくさん集まっているのは生徒と先生ではどちらが多いかを比べるためには，どのようにすればよいですか。その方法を説明しなさい。

●正答

(1)	イ

●正答例

(2)	学級の生徒が美しいと思う長方形は，その短い辺の長さに対する長い辺の長さの割合がだいたいひとまとまりになるものである。
(3)	相対度数を用いて階級を比べればよい。

中学校・英語 読むこと（予備調査）　まとまりある文章から大切な部分を読み取る

7　次の英語は，あなたが見つけたイングリッシュ・カフェ（English Café）という催しのホームページの一部です。参加者が事前に準備すべきことを知るためには，この中の１から４のどの部分を読めばよいですか。最も適切なものを１つ選びなさい。

English Café

Free English Program

Date : Sunday, June 3rd
Time : 3:00 p.m. - 5:00 p.m.
Place : City Hall Restaurant

Come to English Café and ...

1 -You can enjoy speaking English with people from many countries.
-You can learn about their countries: the U.S., Australia, Canada, China, India ....

2 -You will have a chance to tell them about Japanese traditional things in English. Please think of something to talk about.

3 -We are going to have some food from other countries. Of course, there will be Japanese food, too.

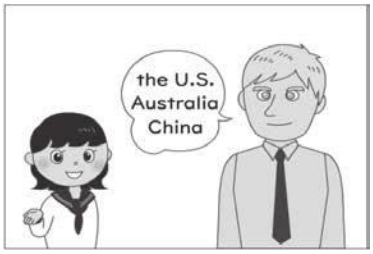
4 If you have any questions about the program:
You can send an email to midori@××××.××,
call 0120 - □□□ - □□□ , or visit our office at City Hall.

●正答

2

中学校・英語 話すこと（予備調査）　日常会話でのやり取りに即興で応じる

大問２　あなたは，ナオミと，イギリスから来たリチャード先生の３人で話をしています。まず，ナオミとリチャード先生が，２人で話している場面から始まります。その後，あなたが尋ねられたら，２人のやり取りの内容を踏まえて，英語で応じてください。解答時間は20秒です。それでは，始めます。



R: I want to visit three countries: the U.S., Australia, and China.
N: Why do you want to go to the U.S.?
R: Because I want to see a baseball game there. I'm interested in baseball.
N: I see.
R: And I want to go to Australia again.
N: When did you go?
R: Two years ago. It was a lot of fun.
N: Oh, I want to visit Australia.
R: Great!
（２人が画面の先の生徒の方を見る）
N: Well, do you have any other questions for him?

●正答例

Why do you want to go to China?

「話すこと」の問題は，学校のパソコンに音声を録音する方法で行います。万全に準備をしたが，それでも，調査中の停電や機器の故障等により，影響を受ける可能性があります。

調査結果等の集計・分析・提供

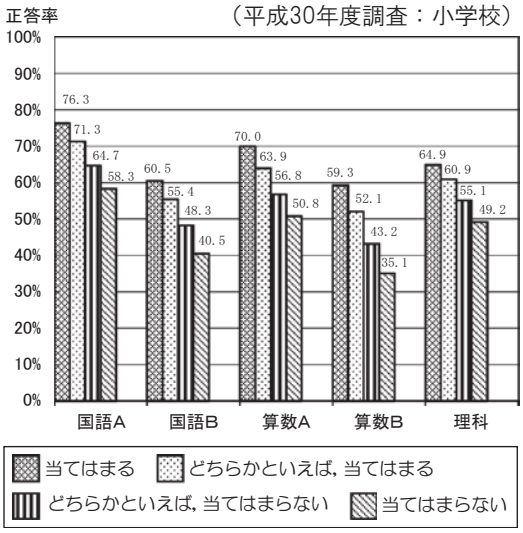
集計・分析

◇国全体，各都道府県，地域の規模等における調査結果を公表

◇児童生徒の学習環境や生活習慣，学校における指導や教育条件の整備状況等と学力の関係を分析，公表

▼公表する調査結果の例

◇５年生までに受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から進んで取り組んでいたと思いますか

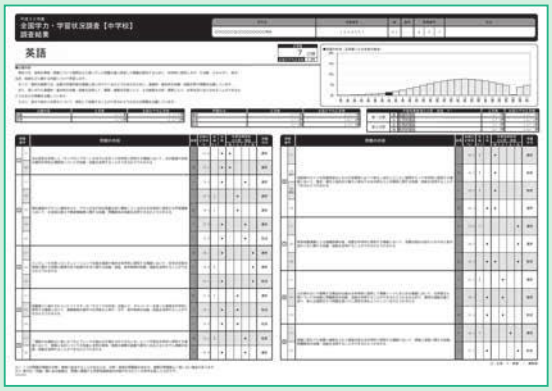


提　供

◇各教育委員会，学校に以下の調査結果を提供

- 児童生徒の正答数分布図
- 問題別正答率・無解答率，類型別解答状況
- 質問紙調査の結果
- 各児童生徒に提供する「個人票」　　など

▼「個人票」のイメージ



全国学力・学習状況調査　検索

文部科学省 HP
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/index.htm

国立教育政策研究所 HP
http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html

資料２

平成３１年度全国学力・学習状況調査の実施予定について

平成３１年４月１８日に実施される平成３１年度全国学力・学習状況調査（全数調査）の鳥取県内公立学校の実施予定校数と児童生徒数です。※公立学校のみ

【学校数】

	調査対象校	実施予定校	実施率
小学校調査	１２５校 義務教育学校前期課程 3含 特別支援学校小学部 2含	１２５校	１００%
中学校調査	５９校 義務教育学校後期課程 3含 特別支援学校中学部 2含	５９校	１００%
合　　計	１８４校	１８４校	１００%

【児童生徒数】

（人）

	参加人数
小学校調査	約４，９００
中学校調査	約４，８００
合　　計	約９，７００

※平成３０年度「学校便覧」の小学校５年生の児童数
及び中学校２年生の生徒数を参照

資料３

知識・活用を一体的に問う調査問題について

【これまでの経緯と調査問題の現状】

○ 全国学力・学習状況調査（以下「調査」という。）においては、これまで、教科に関する調査問題作成の基本理念として、主として「知識」に関する問題（A問題）と、主として「活用」に関する問題（B問題）とに整理してきた経緯がある。

○ この整理については、A問題を通じて学力の底上げが図られたことや、B問題を通じて授業改善の取組が学校現場に広がったことなど、知識と活用を分けた調査が果たしてきた一定の役割について評価する声がある。

○ その一方で、児童生徒のつまずきを把握する上で「知識」と「活用」とを一体的に問うことが有効な場面もあり、これまでの調査問題においても、実生活の場面への活用を想定する中で知識を問うA問題や、大問における思考過程として知識に関する小問を問うB問題など、A・Bの問題区分が絶対的なものではなくなりつつある状況も見られる。

【調査問題の在り方の見直しの方向】

○ 平成２９年３月に公示された学習指導要領は、教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という三つの柱に基づいて再整理されており、これらの資質・能力の三つの柱が相互に関係し合いながら育成されるものという考え方に立っている。

○ こうしたことから、平成３１年度以降の調査の問題作成に当たっては、新しい学習指導要領の趣旨を踏まえ、A問題とB問題という区分を見直し、知識・活用を一体的に問うこととする。

○ 具体的には、国語、算数・数学については、例えば日常生活の場面と関連付けられた設定の下、内容のまとまりに対応する大問の中で複数の小問が展開する構成とすることなどにより、自然に調査問題に表された学習過程に沿って解くことができる出題とすることなどが考えられる。その際、最初の設問に解答できないと、当該大問は全て解答できないという出題にならないよう留意する必要がある。

○ なお、従来A問題の中で測られてきた基礎的な知識・技能は、新しい学習指導要領においても育成すべき資質・能力として重要であるため、児童生徒の学力・学習状況として今後も把握する必要があり、今回の見直し後においても、問題を精選したうえで、調査問題の大問の中の小問の１つとして出題するなど工夫することとする。

【調査問題の意義・メッセージ性】

○ このような調査問題により調査を実施することによって、従来の調査と同様に、各教育委員会や各学校に対して、学習指導要領に示される内容等を正しく理解するよう促すとともに重視される力を子供たちに身に付けさせるといった国としての具体的なメッセージを示すこととなる。

○ 各教科の具体的な調査問題の作成に当たっては、調査問題自体が学校の教員や児童生徒に対して土台となる基盤的な事項を具体的に示すものであることを踏まえ、学習指導要領の下での授業改善に資するものとなるよう、実際に授業する場面を充分に意識するとともに、児童生徒の学習改善・学習意欲の向上などに役立つものとするとの視点から検討を行うことが重要である。

資料４

平成 31 年度全国学力・学習状況調査の時間割のモデル

1. 本体調査実施日

平成３１年度４月１８日（木）（後日実施は、４月１９日（金）～５月７日（火）まで可能）

2. 時間割のモデル

※国語、算数・数学の調査時間の変更：小学校 40 分→45 分、中学校 45 分→50 分に変更

◆小学校

1時限目（45 分）	2時限目（45 分）	
国語（45 分）	算数（45 分）	児童質問紙（20～40 分程度）

※児童質問紙の実施は、2時限目終了後に、各学校の状況に応じて、柔軟に実施可能。

◆中学校（6学級の場合）

1時限目（50 分）	2時限目（50 分）	3時限目（50 分）	4時限目（50 分）	5時限目（50 分）	6時限目（50 分）
国語（50 分）	数学（50 分）	英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」（45 分）	生徒質問紙（20～45 分程度）等	英語「話すこと」（1組、2組、3組）	英語「話すこと」（4組、5組、6組）

＜補足＞

○ 「話すこと」調査の所要時間は、生徒1人当たり 10～15 分程度（準備5～10 分程度を含む）。同一学級の生徒を一斉に調査でき、かつ調査対象学年の生徒全員が3単位時間以内で調査できるように設計されている。

○学校規模等により「話すこと」調査の所要時間が5、6時限目で収まらない場合は、4時限目も「話すこと」調査の実施に充てることができる。

○「話すこと」調査の終了後に、「話すこと」調査に関する「生徒質問紙調査」の一部（所要時間1分程度の選択式）を実施予定。

平成３１年度一般会計当初予算説明資料

資料5

10款　教育費

1項　教育総務費　　小中学校課、教育センター（内線：７９３５）

04目　教育連絡調整費　　（単位：千円）

事　業　名	本年度	前年度	比　較	財　源　内　訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
学力向上総合対策推進事業	15,256	7,576	7,680				15,256	
トータルコスト	18,431千円（前年度　10,754千円）［正職員：0.4人］							
主な業務内容	学力向上推進プロジェクトチーム会議の開催、学力向上研修会等の開催、学校訪問による授業改善への支援、活用問題集・実践事例集等の作成・活用							
工程表の政策目標(指標)	学力向上の推進							

事業内容の説明

1　事業の概要

全国学力・学習状況調査で明らかになった学力課題の解決に向けて、平成30年度に「学力向上推進プロジェクトチーム（ＰＴ）」で対策を検討した結果を踏まえ、これまでの取組を見直し、戦略的、短期・中長期的な視点から、市町村教育委員会と一体となった取組を進め、児童生徒の学力向上を図る。

2　事業内容　　（単位：千円）

区　分	予算額	事　業　内　容
学校現場における学力向上策の推進 ◇教員の指導力向上･授業改善の推進 ◇児童生徒の学習意欲･学力の向上	14,156	○秋田県の授業手法を参考に、鳥取県の日々の授業改善の実践･徹底を図るとともに、学校教育支援サイトの構築や中学校数学問題データベースの導入等を行い、教員の指導力の向上及び授業改善を推進する。 ○小学校算数の単元到達度評価問題を実施し、児童の理解度の検証を行いながら授業改善を推進するとともに、若手教員を先進地に派遣し、指導力向上を図る。 ○小学校の国語･算数の活用力向上に向け、平成30年度に作成した活用問題集について、これを用いた授業の実践事例や文科省、県が作成した授業アイデア例等をさらに盛り込んだ活用問題集に充実させ、児童が「わかった」「できた」を実感できる授業への改善と徹底を図る。 ○家庭学習の質の向上を図るため、平成30年度の取組について実践事例集を作成し、家庭学習の意欲を引き出す好事例の周知･徹底、横展開を推進する。
教育委員会の指導体制の見直し･強化	1,100	○引き続き学力向上推進ＰＴを設置し、外部アドバイザー等の意見を伺いながら、学力向上策の検証、改善を進める。また、事業の検証や学校現場での具体的な取組方法、徹底を図るための方策等を検討するため、ワーキンググループ（WG）会議を開催する。
合　計	15,256	

3　これまでの取組状況、改善点

平成30年度から各地域の学力課題等を踏まえた取組を県と市町村教育委員会が連携しながら推進している。また、平成30年度に設置した学力向上推進プロジェクトチームでの議論を踏まえ、授業改善の焦点化を図るとともに、各課題に応じた学力向上策を一層推進するため、各地域の取組の横展開を行っていく。